

8. 河道特性

網走川は、その源を阿寒山系の阿幌岳(標高978m)に発し、山間部を流下し、津別町市街部で津別川を合わせ、平野部を流れながら美幌町市街部において美幌川と合流する。美幌町を貫流し女満別町において網走湖に至り、トマップ川および女満別川を湖内に集め、湖から流れ出て網走市街地を経てオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長115km、流域面積1,380km²の一級河川である。

上流域(源流部から津別川合流点付近)

河床勾配が約1/50~1/300であり、天然林が多く残り、キタミフクジュソウ、クリンソウ等の植物が生育している。また、サケやカラフトマスが上流域まで遡上しており、サケの産卵床が分布している。

中流域(津別川合流点付近から美幌川合流点付近)

広い畑地帯に調和した河川景観を形成しており、河床勾配が約1/300~1/600であり、サクラマスやシベリアヤツメ等が生息している。高水敷はハルニレ群落やエゾノキヌヤナギを主体とするヤナギ群落、ヨシ群落が分布し、美幌町市街地の高水敷には河畔公園や運動公園が整備され、イベントやスポーツ等に利用され、地域住民の憩いの場となっている。

下流域(美幌川合流点付近から網走湖に流入するまで)

河床勾配が約1/2,000であり、ワカサギの産卵床が連続して分布しており、河岸はエゾノキヌヤナギやクサヨシが繁茂し、オジロワシ、オオワシが周辺を飛来する。また、広い高水敷は採草地等に利用されている。

網走湖

約千年前に現在の形となった海跡湖であり、下流に約7kmの網走川を介してオホーツク海につながっている汽水湖で、網走湖及びその周辺は国定公園に指定されている。また網走湖の南東岸には、国の天然記念物にも指定されている女満別湿性植物群落があり、網走の自然景観を代表するミズバショウ群生地は56haあり全道1位となっている。女満別湿性植物群落を含む網走湖畔周辺は、アオサギの営巣地となっている他、オジロワシ、オオワシ、クマガラ等の多くの鳥類の休息地、採餌場となっている。また、流水とともにアザラシ等が訪れ網走湖湖口で冬を過ごす。

水際にはヒロハノエビモ・ホザキノフサモやマツモ等の水生生物が生育している。

感潮域(網走湖から河口)

網走市街を貫流し、漁港として利用されている河口部に至る。網走湖下流の大曲地区は、良好な河畔林形成し、アオサギ、カワセミ、ミコアイサ等の水鳥や、オジロワシ、オオワシ等の多様な鳥類が休息地、採餌場として利用している。また、ワカサギ、シラウオの他、沢水の溜まる箇所にはエゾサンショウウオが生息している。

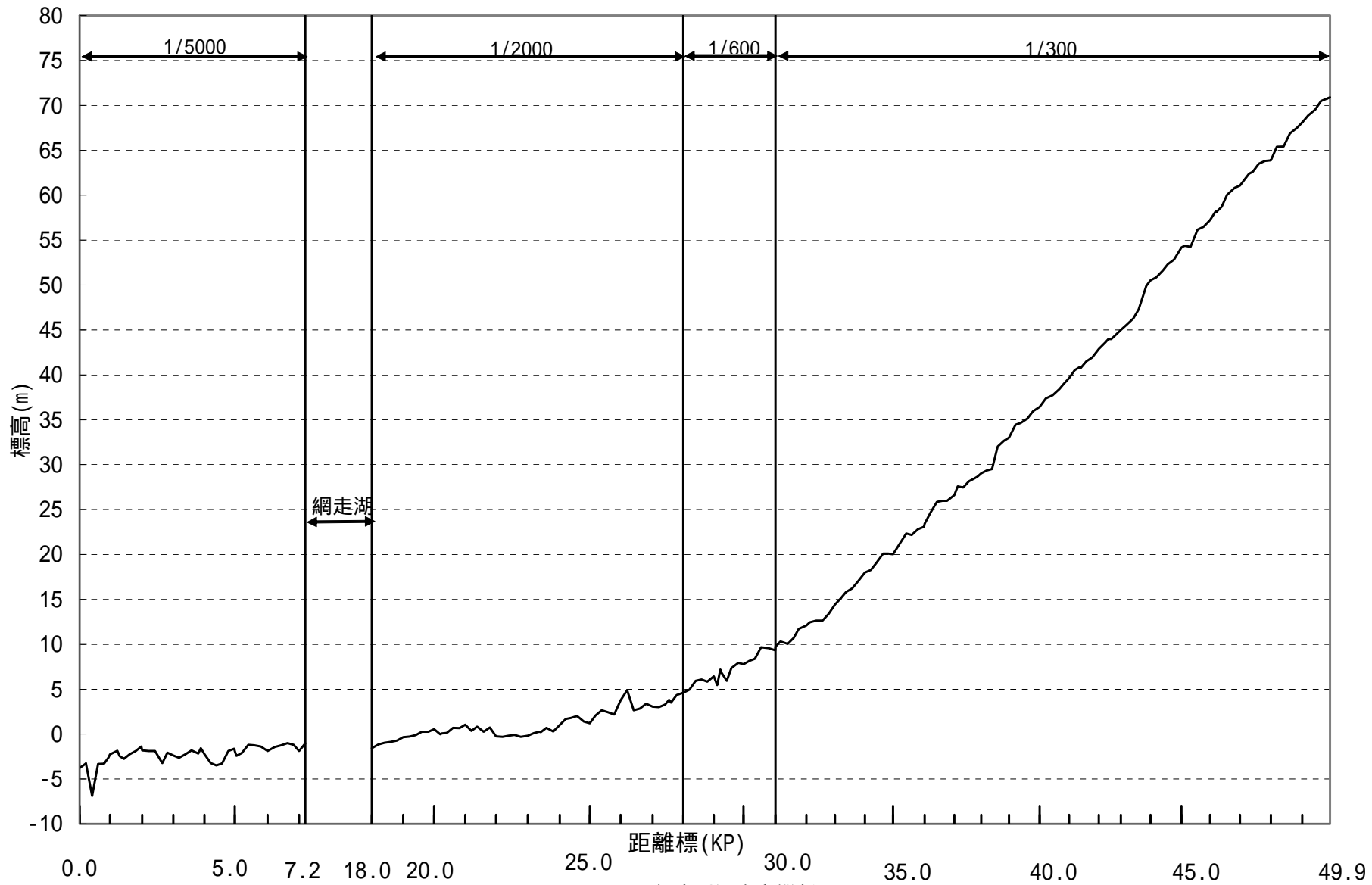


図 8-1 網走川河床高縦断面図